

IGF2018 報告会

IGF2018:マクロン演説を読み解く

IGFとはどういう場か:WSISからパリ・コールまで

—IGFの最近の動き 内側から見たIGFの世界—

Xinova 上級副社長・日本総代表 加藤幹之 (2006~2012 MAG委員)

株式会社メルカリ 社長室政策企画参事 望月健太 (2017~2019 MAG日本委員)

WGIG報告書 (2005年7月)

インターネット・ガバナンスの作業上の定義

インターネットガバナンスとは、「インターネットの展開と利用を形作る、共有化された原則、標準、規則、意思決定手続き、プログラムを、政府、民間部門、市民社会がそれぞれの役割において、開発し適用すること」であるとされた。

インターネットガバナンスメカニズムに関連する提言

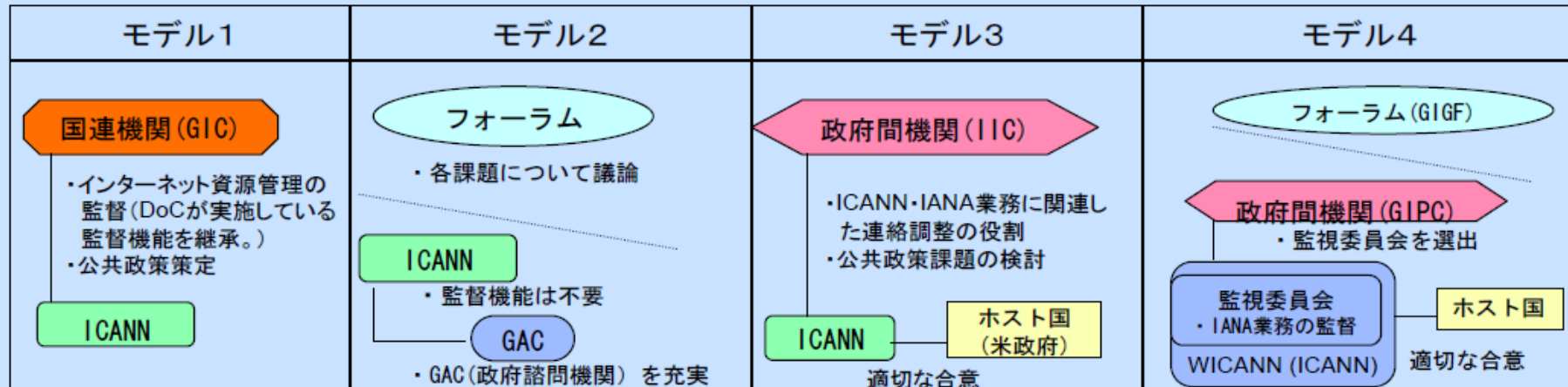
○「フォーラム機能」

インターネット・ガバナンスに関するあらゆる課題について、全てのステークホルダーの間で対話ができるような新たなスペースを設けるべき。望ましくは国連とリンクさせるべき。

○「グローバルな公共政策と監督」

- ・一国の政府が、国際的なインターネットガバナンスの中で突出した役割を持つべきではない。
- ・ガバナンス機能のための組織形態は、政府、民間部門、市民社会及び国際機関の完全な参加によるもので、多国間、透明および民主的なものでなければならない。
- ・インターネットの継続的な国際化と普遍性の原則に照らし、既存のガバナンスメカニズムについて見直しが必要。

【今後の検討のために以下の4つの組織モデルを提案】



WSISチュニス会合の合意内容（2005年11月）



1. インターネットのガバナンス問題








- 現状のICANN体制は維持するが、継続検討とする
- ccTLDの管理は、各国の自治を認める
- 各国政府が平等に役割・責任を持つことを確認し、Enhanced Cooperationを求める

2. フォーラム（IGF）の設立

- インターネットガバナンスに関連した公共政策問題を議論する場
- 既存の機関等を置換するものではなく、監督権限なし
- 国連が事務局を設け、全てのステークホルダーが参加する

IGFのこれまでの開催地

2020年以降のIGFアジア開催への期待あり！

2019年IGF：ドイツ・ベルリン ※未定 	2018年IGF：フランス・パリ "The Internet of Trust" 
2017年IGF：スイス・ジュネーブ "Shape Your Digital Future!" 	2016年IGF：メキシコ・グアダハラ "Enabling Inclusive and Sustainable Growth" 
2015年IGF：ブラジル・ジョアンペソア "Evolution of Internet Governance: Empowering Sustainable Development" 	2014年IGF：トルコ・イスタンブール "Connecting Continents for Enhanced Multistakeholder Internet Governance" 
2013年IGF：インドネシア・バリ "Building Bridges - Enhancing Multistakeholder Cooperation for Growth and Sustainable Development" 	2012年IGF：アゼルバイジャン・バク "Internet Governance for Sustainable Human, Economic and Social Development" 
2011年IGF：ケニア・ナイロビ "Internet as a catalyst for change: access, development, freedoms and innovation" 	2010年IGF：リトアニア・ヴィリニュス "IGF 2010 - developing the future together" 
2009年IGF：エジプト・シャルムエルシェイク "Internet Governance - Creating Opportunities for All" 	2008年IGF：インド・ハイデラバード "Internet for All" 
2007年IGF：ブラジル・リオデジャネイロ "Internet Governance for Development" 	2006年IGF：ギリシャ・アテネ "Internet Governance for Development" 

※2015年12月の「世界情報社会サミット（WSIS）成果の実施に関する全体総括レビュー・ハイレベル会合」にて、IGFのマンデートがさらに10年延長。

IGF2018開催結果

開催日程

2018年11月12日（月）～14日（水）（※今回はDay 0なし）

開催地

フランス・パリの国連教育科学文化機関（UNESCO）

メインテーマ

“The Internet of Trust”

IGF2018の特徴

- ホスト国の大統領と国連事務総長がIGFに現地参加したのは**史上初**
- 「**パリ・デジタル・ウィーク**」の一連のイベントの1つとして開催
- マクロン大統領が「[サイバー空間における信頼と安全のためのパリ・コール（Paris Call for Trust and Security in Cyberspace）](#)」を発表
- 143カ国から**約3,000人**が現地またはオンラインで参加
- 全日程を通じ、合計で**171のセッション**が開催（※オープニング&クロージングセッションに加え、メインセッション（8）、ワークショップ（71）、オープンフォーラム（27）、BPFセッション（5）、DCセッション（15）、NRI合同セッション（5）、ライトニングセッション（24）、その他（14））

IGFをめぐるMAG内の各ステークホルダーの思惑 (2019)



Asia Pacific Regional IGF (APrIGF)

- APrIGFはNRIの1つ
 - アジア太平洋地域に関連した話題を扱う
 - IGFと異なり、**国連と直接の関係はない**
 - 継続した議論よりも、その年話題のテーマが中心
 - 期間はDAY0～DAY3の4日間
- プログラム
 - 公募で集まったワークショップの提案をMulti-Stakeholder Steering Group (MSG) が選定（登録上約120名所属）
 - Chair: Rajnesh Singh (ISOC)
 - 誰でもMSGメンバーになる事は可能
 - Chair, Vice ChairはMSGメンバーの選挙で決定
- 成果物 (Synthesis Document)
 - 2015年以降、**議論内容をIGFにインプットすべく** Synthesis Documentを作成
 - 文書は 各APrIGF参加者のボランティアで構成されるDrafting Teamが作成
 - APrIGF期間中及び終了後の意見募集を経て最終版を公開

• APrIGFのこれまでの開催地

2019年APrIGF : ロシア・ウラジオストク

“Enabling a Safe, Secure and Universal Internet for All in Asia Pacific”

2018年APrIGF : バヌアツ・ポートビラ

“Empowering Communities in Asia Pacific to build an Affordable, Inclusive, Open and Secure Internet”

2017年APrIGF : タイ・バンコク

“Ensuring an inclusive and sustainable development in Asia Pacific”

2016年APrIGF : 台湾・台北

2015年APrIGF : 中国・マカオ特別行政区

2014年APrIGF : インド・デリー

2013年APrIGF : 韓国・ソウル

2012年APrIGF : 日本・東京

2011年APrIGF : シンガポール

2010年APrIGF : 中国・香港特別行政区